

「知識基盤社会」について

背景

- 近年の国内外の報告書においても「知識基盤社会」という文言が使われている。
→ 「知識基盤社会」の文言自体を変えるのではなく、グローバル化が「進展」していることを具体的に明記することとしてはどうか。

「知識基盤社会」という文言が使われている例

- 「グローバルな人材競争の調整」（平成20年2月、OECD科学技術政策委員会研究機関・人材作業部会）
- 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（平成20年1月17日中央教育審議会）

- 「学士課程教育の構築に向けて」（平成20年3月25日中央教育審議会）

<用語解説>

【知識基盤社会】

「英語のknowledge-based societyに相当する語。論者によって定義付けは異なるが、一般的に、**知識が社会・経済の発展を駆動する基本的な要素となる社会を指す。**類義語として、知識社会、知識重視社会、知識主導型社会等がある。」

- 「我が国の高等教育の将来像」（答申）（平成17年1月28日、中央教育審議会）

「21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」(knowledge-based society)の時代であると言われている。」

『知識基盤社会』の特質としては、例えば、

①知識には国境がなく、グローバル化が一層進む、

②知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる、

③知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づき判断が一層重要となる、

④性別や年齢を問わず参画することが促進される、

等を挙げることができる。」

（参考）先進国におけるグローバル化の影響と求められる資質・能力について

（「FOREIGN AFFAIRS」（平成18年3、4月号）「オフショアリング：次の産業革命」アラン・ブラインダー（プリンストン大学教授））

アメリカその他豊かな国々は、**自分たちの社会に実際に存在する労働者のために仕事を用意するための教育システムへ移行しなければならないだろう。**...より高度な教育を受けるのはよいことかもしれないが、教育は万能薬にはならない。将来的には、子どもたちは、**どれくらい高度な教育を受けたかよりも、どのように教育を受けたかがより重要であると検証されるようになるかもしれない。**しかし、教育の専門家はこの問題についてまだ考え始めてはいない。すぐに考え始めるべきだ。